

変更履歴

変更履歴

日付	Ver	内容
2013.1.9	V1.130109	新規リリース
2013.8.15	V1.130815	バグ対応 <ul style="list-style-type: none"> ①シナリオ出力のタグ名不正のため、シナリオ出力したファイルがシナリオ入力できないことへの対応 ②シナリオ入力後、コンボボックスリスト不正への対応 機能追加 <ul style="list-style-type: none"> ①起動パラメータにシナリオファイルを指定し、画面初期表示させる

1.AutoActionについて

マウス操作、キーボード操作、文字入力の操作をAutoActionの画面で入力します。
それをシナリオとして、AutoActionが自動実行します。

以下、用途の一例です。

- ・ 毎日の定型操作を自動実行し、手間を省きます。
- ・ アプリケーション開発のテスト等、単純操作を自動実行させることで、PCに付きっきりにならずに済みます。
- ・ アプリケーションのデモンストレーションの自動実行。

2.AutoActionの実行環境

OS:Windows XP,Windows 7

必須:.NETFramework2.0

3.インストール手順

- ① AutoAction.zipをダウンロードします。
- ② AutoAction.zipを解凍します。
 - ・解凍後フォルダ構成

```
¥AutoAction
├-AutoAction.exe          ...実行ファイル
├-AutoAction.config       ...設定情報ファイル
└-AutoActionマニュアル.pdf ...マニュアル
```
- ③ 任意: AutoActionフォルダを適当なドライブ、フォルダに移動してください。

4.アンインストール手順

AutoAction.exeが存在するフォルダ(デフォルトの場合「AutoAction」)を、削除してください。

5.その他

作者:syuminac

連絡先:syuminac@gmail.com

バグ情報、要望等ありましたら連絡先宛にお願いします。

AutoActionに関する権利は、作者に帰属します。

1.画面項目説明

AutoAction.exeを実行(ファイルをダブルクリックまたは、選択しEnterキー押下)すると、画面を表示します。
 前回実行内容を初期表示します。起動パラメータにシナリオファイルを指定するとそれを初期表示します。(参照:3初期表示するシナリオの指定方法)

実行中画面

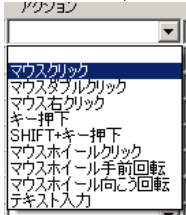


①ボタン

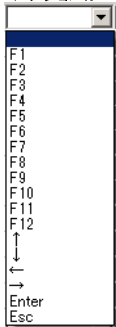
- ・実行: ②の内容でアクションを実行します。前回実行内容として保存します。
- ・終了: 画面を閉じて、終了します。(ESCキーでも終了します。)
- ・シナリオ入力: ファイルに保存しているシナリオファイルを選択し、画面に表示します。
- ・シナリオ出力: 画面内容をシナリオファイルに保存します。ファイルの命名規則、拡張子、保存先フォルダは任意設定です。
- ・座標確認: 全画面に透過型の網目を表示します。クリックした座標を、画面左上に表示します。

②シナリオ

- ・No.: 実行するアクションの順番です。空白行なく入力してください。
- ・待ち秒: アクションを実行する前に、待つ秒数です。
- ・アクション: マウスクリック、マウスダブルクリック等のアクションを選択します。



- ・入力値: アクションが「テキスト入力」の場合、その値を入力します。(制約: 入力先が、ペースト可能であること)
- ・押下キー: アクションが「キー押下」「SHIFT+キー押下」の場合、押下するキーを選択します。



- ・繰返回: アクションを何回繰り返すか入力します。1以上が有効です。
- ・繰返間隔: 繰返回が2以上の場合、その実行間隔の秒数を入力します。
- ・X座標: アクションを実施するX(横)座標を入力します。※1
- ・Y座標: アクションを実施するY(縦)座標を入力します。※1
- ※1: ダブルクリックすると、座標確認画面を表示します。
 X座標、Y座標から起動した座標確認画面上でダブルクリックすると
 その座標を自動的にX座標、Y座標に設定します。
- ・アクション説明: 必要に応じてアクションの説明を入力します。メモ代わりに使用してください。
- ・全アクション繰返回: No.1～20まで表示中のアクションを実行する回数を入力します。1以上が有効です。
 繰返し時、No.1、No.2・・・と実行します。

③入力補助ボタン

- ・消: 該当行を削除します。
- ・↓: 該当行の内容を、下の行に上書きコピーします。
- ・↑: 該当行の内容を、上の行に上書きコピーします。

④実行中ボタン

- ・中断: 実行中のアクションを中断します。

2. 操作手順

操作の種類は次の通りです。

- 2.1. アクションを自動実行・登録する
- 2.2 画面の内容をシナリオとして登録する
- 2.3. 登録したシナリオを画面に表示する
- 2.4. 座標を確認、入力する。

それぞれの手順を説明します。

2.1. アクションを自動実行・登録する

- ・画面のNo.1の行から、実行するアクションを入力します。
- ・入力ができたら、実行ボタンを押下します。
- ・実行ボタン押下後、自動的に前回実行として登録されます。

実行終了後のメッセージ



中断終了後のメッセージ



2.2. 画面の内容をシナリオとして登録する

- ・画面のNo.1の行から、実行するアクションを入力します。
- ・入力ができたら、シナリオ出力ボタンを押下します。
- ・任意のファイル名を命名し、保存してください。

2.3. 登録したシナリオを画面に表示する

- ・シナリオ入力ボタンを押下します。
 - ・登録したシナリオのファイルを選択します。
 - ・画面にシナリオが表示されます。
- 仮にシナリオのファイルでない場合、画面の内容は変わりません。

2.4. 座標を確認、入力する。

- ・座標確認ボタンをクリックまたは、該当行のX座標、Y座標をダブルクリックします。
- ・座標確認画面(左上部分を抜粋)



透過濃度、ピッチ、線の色は任意で変更してください。

マウスでクリックした場所を、赤字で表示します。同時にクリップボードにコピーしています。

座標確認画面の終了方法

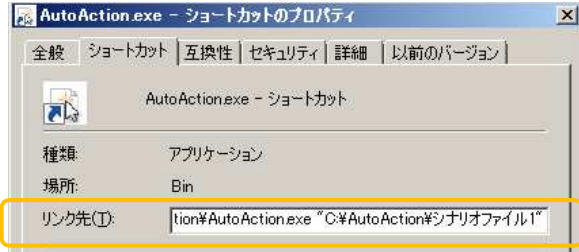
- ・座標確認ボタンから起動した場合: ESCボタンを押下します。
 - ・X座標、Y座標項目から起動した場合: 対象の座標をダブルクリックします。値が自動セットされ、画面を閉じます。
- なにもしない場合、ESCボタンを押下します。

3.初期表示するシナリオの指定方法

起動パラメータにシナリオファイルを指定するとそれを初期表示します。
方法は、ショートカットファイルを作成し、プロパティにシナリオファイルを指定します。
操作は次の通りです。

- 3.1.AutoAction.exeのショートカットファイル(AutoAction.exe - ショートカット)を作成する
 - 3.2.AutoAction.exe - ショートカットのプロパティを開き、シナリオファイルを設定する
 - 3.3.AutoAction.exe - ショートカットを実行する
- それぞれの手順を説明します。

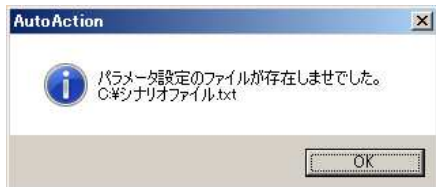
- 3.1.AutoAction.exeのショートカットファイル(AutoAction.exe - ショートカット)を作成する
 - ・AutoAction.exeのアイコンを右クリックし、「ショートカットの作成(S)」を選択します。
- 3.2.AutoAction.exe - ショートカットのプロパティを開き、シナリオファイルを設定する
 - ・AutoAction.exe - ショートカットを右クリックし、プロパティを選択します。
 - ・リンク先の「...%AutoAction.exe」に続けて、半角空白＋シナリオファイル名を設定します。



- 3.3.AutoAction.exe - ショートカットを実行する
 - 3.2 の設定したショートカットファイルを実行します。

シナリオファイルを指定した実行時、次の問題が考えられます。

- ・設定したシナリオファイルが存在しない
 - 下記メッセージを表示します。処理は続行し、通常の画面表示(前回実行内容)を行います。



- ・設定したシナリオファイルの内容が、AutoActionのシナリオファイルのレコード形式でない
 - 処理は続行し、通常の画面表示(前回実行内容)を行います。メッセージの表示はありません。